

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	千代田区外神田 2-17-4
園名	保育室「愛の園」

## 1. 活動のテーマ

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実施し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。

### <テーマの設定理由>

開園以来、月2回30分ずつの英会話教室の中で、子どものみならず保育士も共に参加して一緒に英語に触れて参りました。そんな中、外国人の保護者の方が数名いることから、お迎えに来ると英語で話しかけてみようするなど、英語への興味関心が高まってきていると感じます。今回はプレバレーションさんによる英語教室の中で生きた英語に触れ、日本語や英語など言葉への興味をもっと高めていけると思っています。またネイティブの保育補助も入り、外国の方との交流を深めて参ります。

## 2. 活動スケジュール

乳児は英語と日本語の絵本に触れ、違いについて知る機会を持つ。幼児は昨年度の活動を進めるなかで「英語を話すお友だちと英語で話をしてみたい」「英語で伝えるにはなんと言うんだろう？」という気持ちが高まってきた様子。両方のことばの違いや特徴への疑問を問いとして設定し、英語・日本語両方の歌の教材、絵本を用意して、ことばの違いに関して知る中で、それぞれの言葉をつかう人たちや、国、文化を探究していく。日本語・英語両方を外国人が保育に入ることにより普段の生活の中で聞き、ことばの違いについて探求できるようにする。写真や動画を使って記録する。

活動が終わったあと、外国人の保育補助を含めて振り返り、内容については掲示し保護者と共有する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

環境設定： ケアタイムの中で

準備物： 歌詞カード、動物フラッシュカード、動物鳴き声図鑑

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

3、4歳児クラスでゆかいなまきばの歌を英語と日本語で歌ってみる。フラッシュカードの動物の鳴き声を聞き比べ、実際の鳴き声も聴いてみる。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

絵本を読んでいた流れから、子ども達を集める。担任とるみ先生が揃っており、何かが始まることを察知して、集まり始める。ゆかいなまきばを流すと、日本語で何度か歌っているため、声に出して歌う。次にるみ先生の英語 Ver で聴かせてもらう。一人は英語 Ver の方が馴染みがあったのか、るみ先生の口元を見ながら一緒に英語で歌い始める。もう一人は日本語ではないことに気付いたのか、日本語との違いを知りたかったのか、日本語の歌詞カードを確認していた。次に担任とるみ先生にフラッシュカードを見せてもらい、鳴き声を発してみる。にわたりのカードでは一人が「コケッココ」という。るみ先生が「cock -a-doodle-doo」と発すると、子どもたちはポカンとした表情をする子が多い。るみ先生の動きや口元をじっと見ていた。カエルのカードでは、子ども達が「ゲロゲロ」と発する。るみ先生が「ribbit ribbit」と鳴き声を出すと、「え！」と驚いた声をあげる子どもたち。ライオンのカードでは「ガオー！」と言いながら手と体を使って表現する。るみ先生は英語では「roar」と教えてくれる。るみ先生の発した言葉も真似をしてみる。羊のカードでは「バーバー (baa)」と自ら発する子がいた。英語での鳴き声だったのでびっくりした。牛のカードでは「モーモー」と発し、キリンのカードでは「ジラーフ！ (giraffe)」と名前を英語で発する。次に本物の鳴き声が聴こえる絵本を出す。「本物の鳴き声聴いてみようか」というと乗り気になる子どもたち。「ねこはどんな鳴き声かな、聴いてみてね」と伝えて鳴き声を流してみる。るみ先生が「meow」といい、保育者が「ニャー」という。「どっちかな？」と聞いてみると、「にほんに聴こえるね！」と答える。(ニャーと鳴くという意味) 一人は「じゃあコウモリは？」と違う生き物の鳴き声が気になった様子。コウモリってどうやって鳴くんだろうねという話になる。次にゴリラの鳴き声を聴いてみる。るみ先生が「ooh ooh」というと、一人は「あれ？」と不思議な様子。先日遠足で水族館にいったことを思い出し、オットセイの声知ってる？と言い、「キエーキエー」と真似をする。犬の鳴き声を流すと、「ワンワン！」子ども達が言った後るみ先生が「英語では bow-wow だよ」と教えてくれる。

## 5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

ゆかいなまきばは、英語の方が聞きなじみがあったようで、英語の方が子ども達がよく歌っていた。フラッシュカードでは日本語と英語の鳴き声の発し方を比べていると、子ども達の方から知っている動物を「〇〇は？」と興味を示す姿があった。鳴き声では日本語で声に出す子もいれば、英語での鳴き声を教えてくれる子もいて、知っている鳴き声や動物の名前を言っている様子だった。日本語と英語の違いというより、違う表現の鳴き方があるという事実を受け止めている様子だった。去年から英語に沢山触れてきて、皆英語に違和感なく受け入れているようだった。この活動をきっかけに、日常でも言語の違いについてもっと触れていこうと思った。

